

# 健やかな子どもの育成を願って

## 子どもへの関わりかた

「子どもが大人になる」って当たり前のことですが、そこに関わる大人のあり方は、実は難しい事だと、大人ははっきり認識しているでしょうか。

子どもが生まれて大人になるまでには、親や地域の人たち、学校の先生や親戚、知人など、たくさんの人たちの関わりがあります。

子どもが小さい時は、いろいろな病気を患うし、親としては大変な思いをするものです。

また、偏食がひどいとか、発達が遅れているのではないかと、小学校に入れば、学校へちゃんと行けるのかな、勉強についていけないのかな、友だちと仲良く遊べるかな、と心配はつきませんね。

そういう時、ちょっと話を聞いてくれる保育士や先生や、役場の保健師、あるいは友だちや仲間が周りにいますか。でも、もっとも近くにいて毎日顔を合わせる家族こそが、一番の理解者であってほしいですね。

## 地域で子どもを育てる

子どもたちは未来にむかって歩き出そうとします。子どもと大人の間を行きつ戻りつしながら思春期を迎えます。でも、ある日突然、思春期に入るわけではありません。

覚えておきたいのは乳幼児期から学童期を積み重ね、思春期を迎えるということ。さて、この間に大人にできることは何でしょうか。特に親にできることは少ないかもしれませんが、子どもがいろんな仲間やいろんな大人とたくさん関わりを持たせる手助けはできます。

そのことで思春期の悩みは親子共に軽減されるものです。近年、子どもへの虐待が多く報じられていますが、児童虐待防止法が施行され、関係機関や地域住民の関心は随分と高まってきました。それでも「虐待など自分には関係ない」「そんな事は周りでは起こっていない」という声が聞こえます。

しかし、筑前町でも他人事ではありません。虐待は起きています。そこで、筑前町では2006年12

月に要保護児童対策地域協議会を立ち上げ、子どもを取り巻く関係機関が集まり、子どもたちがより安全にやり安心して生活できるよう支援のあり方を検討しています。つまり、子どもは地域みんなで育てようということ。

## よきパートナーになって

気になる子どもが周りにいたら、どうぞ一緒に考えていく支援者になってください。子どもたちは子どもの目線で、精一杯の思いや考えを持っていきます。私たち大人は、子どもたちの思いや意見を聞きながら未来を築いていくパートナーとして尊重し、一緒に成長していきたいものです。

11月は全国的に「児童虐待防止推進月間」と定められています。児童虐待防止対策の取り組みが推進され、子どもへの虐待防止を目指して、オレンジリボンキャンペーンが繰り広げられます。

社会全体の責任で、子どもの虐待のない地域をつくりましょう。

## ◆ 編集後記 ◆

今月号は、スポーツで活躍した選手たちを紹介しました。突然の取材依頼にも、みなさん快く引き上げてくださってありがとうございました。大舞台で活躍する人たちの貴重な話が聞けて、刺激になりました。わたしも小学生のころから6年間バスケットボールをしていたので、当時は振り返るいい機会にもなりました。当時は練習がきつくて、どうやってサボろうかとよく考えていたような気がします。足がもつれながらも朝練で運動場15周走ったり、ボールが顔面直撃し、涙を流しながらプレーしたり：それでも今となっては、心から「6年間続けてよかった」と思えます。と言いつつ、何もしたくないままスポーツの秋が終わらないようにしなければと思う今日の頃です。(有)

## 筑前町データ

(H19. 9. 30 現在)

人のうごき		前月比	火 災		年間累計
人 □	29,319人	-2	建 物	1件	10件
男	14,038人	-3	その他	1件	5件
女	15,281人	+1	合計	2件	15件
世帯数	9,478世帯	+3	救急出動	77件	731件

※外国人登録者は含みません